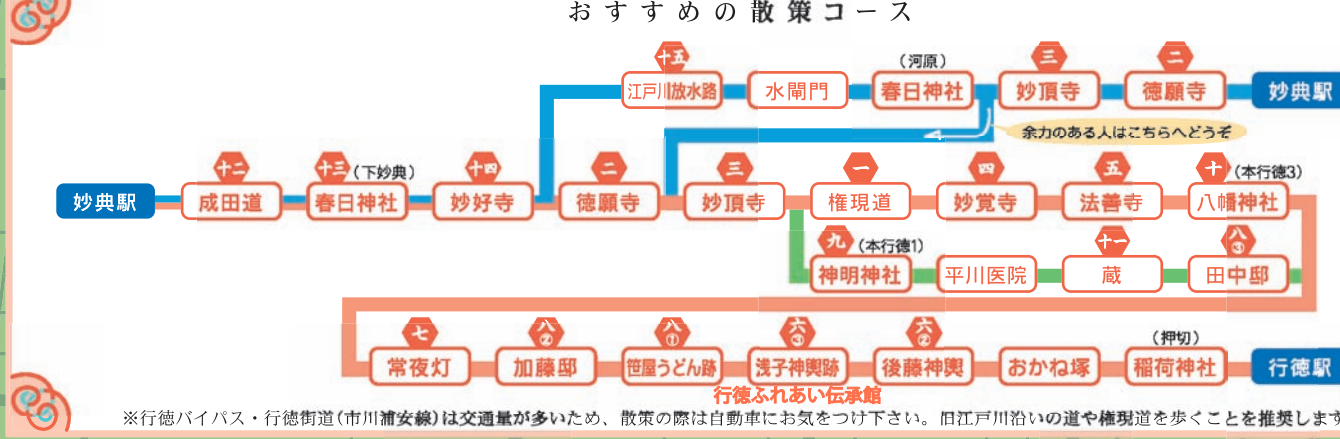


権現道付近の拡大地図



- トイレの利用ができます
- バス停
- スーパーマーケット
- コンビニエンスストア
- 歩道橋



八 旧家

行徳街道沿いには、見た目も見事な歴史的建造物がいくつもあります。船で来てても陸路で来てても、立ち寄りやすい人はいなかったと言われる「笹屋うどん」跡、塩問屋の「加藤邸」、元行徳町長宅「田中邸」など、製塩業で繁栄がもたらされた行徳の姿が偲ばれます。これらの旧家は、行徳の歴史を伝える良好な景観づくりとして「市川市景観賞」を受賞しています。(写真:「笹屋うどん」跡)



九 神明(豊受)神社(本行徳1丁目)

この神社は“行徳さま”と呼ばれた山伏金海法印が、伊勢神宮を勧請して建てたのが始まりと言われ、本行徳1丁目から4丁目、および本塩の総鎮守にあたります。白装束の担ぎ手と独特のみ方、総重量500kgにもおよぶ神輿で有名な「五ヶ町祭礼」は神明(豊受)神社の大祭であり、3年に一度の開催です。境内には村の力もちが持ち上げたという五拾五貫(約206kg)の力石もあります。



十 八幡神社(本行徳3丁目)

本行徳3丁目の鎮守。天元元年(1573年)、相模国鎌倉(神奈川県)の八幡神社を勧請して建てたのが始まりと言われ、五ヶ町祭礼では、3丁目渡御の舞台になります。境内には天満天神の碑や68貫目(255kg)の力石があり、明治時代の力士の銘が刻まれています。また、江戸名所図会にも描かれている大イチョウ2本が市川市の保存樹木に指定されています。



十一 蔵

行徳街道沿いには、レンガ造りの大きな蔵が点在しています。往時の繁栄を偲ばせるこれらの蔵は、米などの食料貯蔵に利用されていたようです。



十二 成田道

成田道(成田街道)は、江戸時代に成田山参詣ルートとして利用された全長約63kmの街道です。ルートは諸説ありますが、陸路:新宿(にいじゅく)→小岩、または水路:日本橋小網町→行徳、市川八幡→船橋→大和田→白井→佐倉→酒々井(しずい)→成田と言われています。



十三 春日神社(妙典3丁目)

春日神社の創建は、境内の灯籠に寛文10年(1671年)とあることから、それ以前の創建ではないかと考えられています。この神社では、3年に1回、10月に町内の家内安全・五穀豊穡・学業成就を願う大祭が行われています。この大祭では、雌雄2頭の獅子頭を1頭につき14名の担ぎ手が担ぎ、町内を廻ります。獅子頭の作者は、一説によると行徳で高名な後藤神輿店後藤直光であると伝えられています。



十四 妙好寺

永禄8年(1565年)篠田雅楽助清久の支援によって、日宣法印を開山に迎え創建された日蓮宗のお寺。山門は建築様式や文様が江戸中期の特色を示しており、貴重な建造物です。市は、昭和43年(1968年)2月に有形文化財に指定し、平成9年3月には修復工事を行いました。(TEL 047-357-3304)



十五 江戸川放水路

洪水を防ぐため、大正8年(1919年)に江戸川放水路が完成しました。現在は放水路を江戸川本流とし、もとの流れは旧江戸川と呼ばれています。その後放水路で分断された行徳と八幡を結ぶ行徳橋が架けられ、更に昭和18年(1943年)に江戸川水閘門が、昭和32年(1957年)には行徳可動堰が設けられました。堰(せき)周辺は絶滅危惧種ヒメマイトトンボの生息地でもあり、豊かな自然が残っています。



参考文献: 明解 行徳の歴史大事典(鈴木和明著) / 市川の自然(市川市発行) / 市川の歴史(市川市教育委員会) 写真提供: 岡野博保氏、田所寿志氏